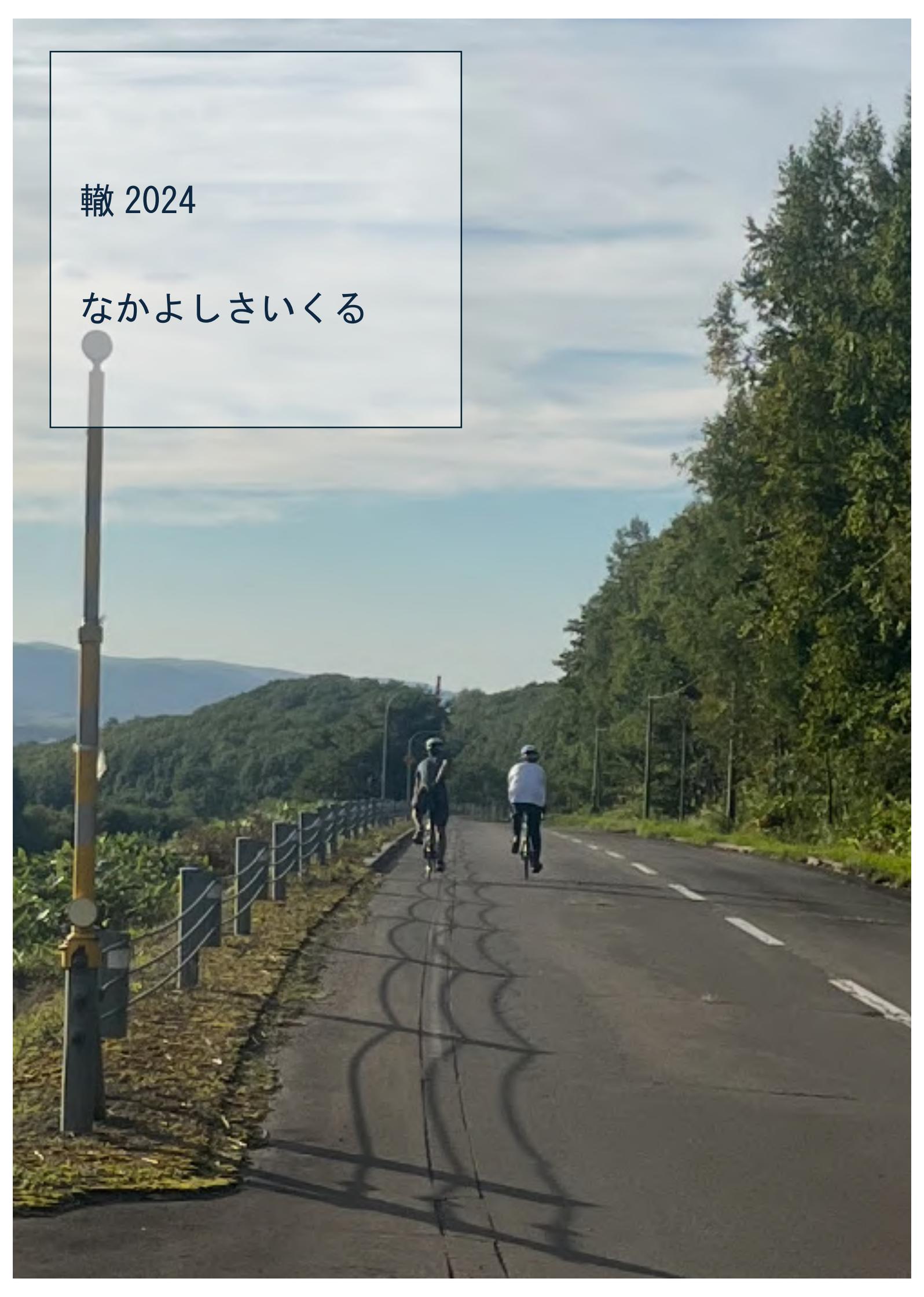


轍 2024

なかよしさいくる



轍 2024 目次 (敬称略)

秋新歓報告 3年 石黒

しまなみ海道・四国カルスト旅 (前編) 3年 山下

北海道合宿前ラン (女満別-旭川) 3年 蓼沼

※ 読んでくださっている新入生の方へ

「轍 2024」をお読みくださりありがとうございます。なかよしさいくるでは、たまにこのような活動報告を PDF で公開しています。ただ今回の「轍」は、「秋新歓報告」以外あまり新入生向けのコンテンツではないかもしれません (弊サークルで自転車が楽しくなってしまった人が書いているので...)

4月初旬には「新歓特別号」なるものを発行する予定ですので乞うご期待です。また、弊サークルホームページの「会報」ページには、過去数年分の活動報告を掲載していますので読んでみてください。今後のサークル・部活探しの参考になれば幸いです。

令和7年3月18日

編者しるす

秋新歓報告

3年 石黒勇樹

こんにちは。会長の石黒です。11月に定サイも兼ねて秋新歓と題したランを開催しました。コースは北千住から川越まで荒川を通るルートです。秋新歓は昨年に引き続き二回目の開催ですが、今年も初参加の一年生に来ていただきました。需要が少なからずあることがはっきりわかったので来年からも継続していきたいものです。

日程: 11月17日(日)

10:00 北千住駅集合

13:30頃 川越・時の鐘付近の駐輪場に到着

参加者: 3年生2人、1年生3人



当日のルート

昨秋新歓を行った際は和光から川越までの距離の短いコースにしましたが、自転車に乗り慣れている人も多く消化不良感が否めなかったため、今年は北千住から川越まで向かうことにしました。そうすることで普段の定サイとしても開催できることになり、より多くの人に参加してもらうことが期待できます。

新歓ランのため準備に時間がかかることが予想されるということもあり、集合時間は早めの10時に設定しました。実際に複数人が様々な理由で遅れてきたのでちょうど良い時間に北千住を出発することになりました。北千住から荒川まですぐにたどり着くのが新歓としてはありがたいポイントですね。

当日は快晴の絶好のサイクリング日和で、荒川サイクリングロードではちびっ子のマラソン大会も開催されてました。あまりの気持ちよさについっかり新歓ということを忘れてスピードが上がってしまい川越着時に疲れている人が多かったのは反省です。



参加者の様子



岩淵水門、荒川と隅田川の分岐点にあり隅田川の氾濫を防ぐ役割を持つ

そのままサイクリングロードを進み、和光のあたりで休憩を取りました。昨年の秋新歓はこの休憩でなかよしタイムが発動してゴールが遅れたので、今年は休憩時間はほどほどにし再出発しました。

さらに進んで川越線を越えて国道16号にたどり着きました。昔はここから16号を走っていたようですが交通量も多いので16号を避け、さらに北上し川越運動公園の前を左折しました。この道を多少クネクネ進んでいくと川越城、川越市役所の前に来て、ゴールの時の鐘まであと少しになります。時の鐘付近は人が多いので自転車を押して歩き、13時半頃に目的地に到着しました。



時の鐘 (これは昨年撮ったもの)



ゴール後食べたそばきり悠々庵のそば

ゴール後は全員でそばを食べ、その後は各々で観光した後、輪行や自走で帰路につきました。

今回のランも全員無事にゴールまでたどり着きました。反省点は先頭のスピードがやや速かったこと、サイクリングロードを一瞬塞いでしまいおじさんに注意されたことです。とはいえあのおじさんのために道を開ける義務がこちらにある状況ではなかった、、、ですが安全な選択をとるに越したことはないので用心していきたいです。

以上が秋新歓のレポートでした。一年生の皆さんにはぜひまた参加していただきたいものです。それでは。

昨年の9月下旬に高知一岡山を走る独り旅に行って参りました。主な目当ては、自転車乗りのメッカ・しまなみ海道と、四国山地の秘境にある絶景地・四国カルストでした。どちらも素晴らしい場所でしたので、この場を借りて報告させていただきます。

- NC3年 山下雄起

ルート

- ・ 1日目 - 高知空港 ー 桂浜 ー 須崎
- ・ 2日目 - 須崎 ー 四国カルスト ー 梶原
- ・ 3日目 - 梶原 ー 大洲 (ー 松山)
- ・ 4日目 - 松山 ー しまなみ海道 ー 生口島
- ・ 5日目 - 生口島 ー 尾道 (ー 倉敷)

1日目

天気：晴れ

毎度お世話になっているANAのタイムセールにて¥7000で購入した航空券を使用し、羽田から一時間半程度のフライトで高知空港に10時ごろ降り立った。天気は晴れ、但し海からの風がやや強かった事を覚えている。



輪行解除を済ませ、最初の目的地である高知市街へと向かう。徳島から室戸を經由してこの地にまで至った国道55号線に乗り、路面電車とも合流し、一時間足らずで高知城下へと到着した。

土佐藩の藩庁が置かれていた高知城は現存天守十二城の一つである。その規模こそ松本城や姫路城などには及ばないが、歴史的価値はピカイチである。明治の廃城令や太平洋戦争中の空爆も生き延びた高知城は、日本で唯一本丸の構造物が完全に遺されている城である。石垣の上に聳えるその古風な風容も印象に残るもので、これまで訪ねた城の中でもかなり私好みだった。

さて、高知城を後にすると、鏡川を渡り桂浜へと向かう。岬の付近はそれなりに急な坂が待っていたが、長さ自体は大した事無く登りきれた。薄水色の海と灰色の砂のコントラストは延々と続くようで、未だ夏の香りを存分に残していた。坂本龍馬の像を一目見た後は、近くのレストランでカツオのたたき丼を食した。折しも秋の旬の季節であり、戻り鰹の濃厚な味を新鮮な香味野菜と共に味わった。



桂浜からは進路を西へ取り、海沿いの道を須崎へ向けて進んで行く。途中、宇佐の港で左折して浦ノ内湾を渡り、横浪半島の先端部にある四国霊場三十八番・青龍寺に寄りつつ、横浪黒潮ラインを走る事にした。民家すらまともでない半島を縦断する道と言う事で、ある程度のアップダウンは予想していたが想像以上にキツく、左側にチラチラと見える太平洋の絶景がなければ苦しかっただろう。武市半平太の像や、浦ノ内湾の畔にある鳴無神社を巡り、坂を一つ超えて須崎の街へとゴールインした。



ここで、思わぬハプニングが起きた。ホテルの駐輪場で自転車に鍵をかけた後、場所を移したいと思い、鍵を外そうとした。ところが鍵が回らない。最近調子が悪いなあ、中が錆びてるのかなあ、と力を加えた所なんと鍵が振じ切れてしまった。

由々しき事態である。鍵はともかく、自転車がロックされてしまったのが不味い。幸いアースはまだしていなかったので、自転車を担いで一キロ先の自転車屋へ向かうも、チェーンが太すぎて切れないと言われてしまった。

どうしよう、明日輪行して高知へ戻ろうか、などと考えを巡らせながらホテルへ歩いていると、日産の販売店の看板が目に入った。ダメ元で入店し、ガレージでチェーンの切断をお願いすると快く引き受けて下さった。

暫く日産には足を向けて寝られないだろう。

その夜は須崎名物の鍋焼きラーメンを食べ、四国カルストへの登坂が控える二日目に備えた。



二日目

天気：曇り時々雨

この日は6時に宿を発ち、四国山地の山へと挑んだ。須崎の交差点を右折し、二ホンカワウソ最後の目撃地である新莊川の谷間に敷かれた国道197号を北上していく。早朝とあって肌寒く、また昨日の精神的疲弊が身体にも影響を及ぼした...かは分からないが、どうにも足が回らない。

5kmほど走ると道は西へと進路を変え、布施ヶ坂峠へ向けて登り坂を進む。6~7%程度の坂が続き、みるみる脚のHPをすり減らしてくるが、ここはまだ序の口なのだと自らを叱咤する。

この国道197号は土佐高知から伊予宇和島へと抜ける古くからの道であり、幕末期には坂本龍馬を初めとする土佐藩士が脱藩するのに用いられた「脱藩の道」である。古人もこの坂を登ったのだと思うと、感慨深いものである。

400m程度登った坂の最終地点には道の駅があり、その先のトンネルを抜けると、右へ曲がる道がある。この10km北を走る国道439号への連絡道であるが、同時に四万十川の源流地点へ向かう道でもある。

高知県南部を流れる清流四万十川は、中村付近の河口から上ると四国奥部の谷間を通り、最終的にこの不入山の麓まで辿り着く。源流を拝む事も考えたが、これから登る負荷と、源流

までの険しく心許ない道、そして明らかに悪くなりそうな目的地の天気を考慮して、今回はパスする事にした。今日の目的はあくまで四国カルストである。



暫く平らな道が続き、津野の集落で右折。国道439号に入る。この道は四国随一の酷道として悪名高い通称「ヨサク」であるが、この区間はセンターラインが存在し、安心して通行する事ができる。10kmほど北上すると、ついに天狗高原、即ち四国カルストへの道が顔を表す。その字面と看板の経年劣化だけで心を折る事ができそうであるが、ここのために遥々四国へと来たのである。

四国カルストは高知県と愛媛県の県境、四国山地の尾根にまたがるカルスト台地である。標高1400mと他のカルスト地形（秋吉台、平尾台など）と比べてかなりの高所かつ秘境に存在するため、マイカー無しでの来訪のハードルは極めて高い。すでにここまで標高を500m弱稼いだが、ここから12kmに渡って更に900mを獲得する必要がある。

最初の数キロは、10%上等の激坂が続く。はなからギアはインナーローに入れ、センターラインの消えた一車線の山道を登っていく。途中で右折を挟み、片側一車線の本線（幹線林道東津野・城川線）に戻ると、本格的に四国カルストへの道へと入っていく。

ここから先はあまり記憶がない。特に景色が良い訳でもなく、鬱蒼と立ち込めてきた灰色の雲の下、無味乾燥とした峠道を登っていく漠然とした印象だけが残っている。唯一と言っていいハプニングは、カーブにて茂みへそそくさと逃げて行く猪の尻を目撃した事くらいである。

谷の下側から登ってきた脇道と合流し、ラスト3kmに入る。ここで峠道は再び牙を向き、10%程度の坂をぶつけてくる。既にここまでの道で疲弊し切った私の脚はとうとうここで参ってしまい、100m程度登っては休み、休んでは登りを繰り返すようになった。それでも、40分近くかけてラストスパートを登り切り、正午過ぎに天狗高原(標高1400m)へと辿り着いた。



国カルストは霧にすっぽり覆われていた。が、それが逆にカルスト台地の神秘性を際立たせた。ピナクルと呼ばれる石灰岩の突出部が緑の大地から無数に顔を出し、起伏に富んだ曲線的な尾根を彩っている。



天狗高原から更に少し登ると一番の高所にある五段高原、そこから更に降りて姫鶴平へと至る。霧は尾根スレスレにまで立ち込めていて、中に入ったかと思えばその下へと潜り、走っていてなかなかスリリングである。牛がカルスト地形の中で放し飼いにされていると言う、あまり見た事のないような風景を眺めつつ、自転車を全速力で走らせた。なんとも爽快な心持ちであった。

姫鶴平(ここにはコテージなど、宿泊施設が備わっている。当日は休館日だった。)でひと休憩おいた後、林道を愛媛県側に降りてから、地芳峠をトンネルで越え、高知県梶原の街へと引き返していった。なお、この林道を降りずに更に尾根を進んでいくと、牧歌的風景が広がる大野ヶ原、そして坂本龍馬脱藩の際に越えたとされる葎ヶ峠へと進む事が出来る。

このひ梶原の街は小綺麗な元宿場町と言った様子であった。その日は宿に付いていた無料券を使って温泉に浸かり、限界まで酷使した脚を癒した。

(後編に続く)

北海道合宿前ラン（女満別空港-旭川編）

3年 蓼沼和希

3年の蓼沼です。皆様いかがお過ごしでしょうか。9月、同期の山下が中心となって北海道夏合宿が行われました。全員が無事だったのがなによりで、企画してくれた彼には感謝しかありません。夏合宿の記事はここに掲載しています↓

http://www.teamnc.net/online-magazines/pdf/24_11.pdf

今回は、その前ラン（女満別空港-旭川空港 一筆書き）の話を書きたいと思います。



1日目

① 女満別空港到着

羽田から飛行機にのって女満別に到着。ちょうどお昼時なのでご飯屋さんを探すと、空港の目の前にラーメン屋さんを発見。かわいい猫ちゃんが迎えてくれた店だと記憶している。



チャーシューメンを頼むと、なかなかインパクトのある醤油豚骨ベース？の一品が出てくる。いい意味でも悪い意味でも僕好みの濃いめの味だったことは覚えている。なかなかおすすめである。

空港を出発すると、いかにも北海道というような一面畑の景色が見えてくる。



② 北見にやってきた

途中なかなか長い坂道などもありながら、休憩もとりつつ、北見にやってきた。普通のビジネスホテルに泊まったつもりなのだが、正直なかなか独特だった。やたらと寝具にこだわっていたり、ドリンクバーがやたらと充実していたり。特に驚いたのは風呂場。あのね、「温度6倍アップ」とか書かれているけど、温度は倍数表示するものじゃないの。



2日目

③ 北見路はとにかく長い

というわけで北見市中心部から出発。今日の旅程(88km)を確認しよう。直進、直進、直進。初めから終わりまで曲がり角なしである。しかもそのうち80km弱はずっと北見市。



北見市は4市町が合併してできた、東西に長い市である。かつての市町は、今は「自治区」と呼ばれている。今回は通らなかったが、旧常呂町はカーリングのロコ・ソラーレの本拠地として名高い。



周り一面が牧草の畑ばかりで、開放感のある路を進む。途中セイコーマートでザンギを食べる。

僕が茨城県出身であることを知っている人は、こう聞かだろう。「茨城にもセイコーマートがあるんだからそこで食べばいいじゃん」。全くわかってないなあ。北海道で食うからいいんだよ。



④ 北の大地の水族館

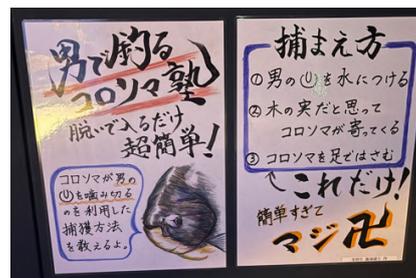
ザンギを食べながら、昼飯を食べる場所を探していると、Googleマップに気になる水族館があった。口コミを見ると「小さい割に充実している」とのこと。こうしてたどり着いた「北の大地の水族館」は、道の駅「おんねゆ温泉」内にある。



中に入ってみると、淡水魚や地域の魚の展示が充実している。特に僕が興奮したのは、ドクターフィッシュに触れられるコーナー。手を突っ込んでみると、めだかくらいの大きさの魚が、どんどん寄ってくる。少しくすぐったい。



展示されている魚の解説もなかなか面白く、特に目を引いたのが、「男で釣るコロソマ塾」。男の何を使って釣るといのか…。



⑤ 石北峠に苦戦

昼飯（カツ丼だった）を食べてひたすら進むと、今日のメインディッシュである上り坂が見えてくる。勾配が5%くらい、と聞いていたのだが、思っている以上に苦しい。適宜水分をとりながら進む。途中、40代くらいの男性に追い抜かされた記憶がある。なんでこんなに早く登れるのか、と毎度思う。そして一旦緩やかになったと思われた坂道も、また急になる。

あいにく登るのに必死だったものだから、写真をほとんど撮っていない。ネットで「石北峠」と検索すると、それっぽいものが出てくるから、それを見れば大体の雰囲気は掴めるだろう（圧倒的手抜き）。

頂上（標高 1050m）にくると、よく晴れていて、なかなか清々しい。ここでようやく 100km 弱ずっと走ってきた北見から脱出である。ちなみにこれは重要なのだが、せっかく登っても売店や自動販売機はない。あるのはトイレだけである。先ほどの道の駅などで事前に補給しておくことは必須であることに注意だ。



⑥ 今日の終点：上川層雲峡

峠道を下ると、今日の終点・上川層雲峡へと至る。層雲峡は大雪山黒岳の麓にある峡谷であり、有数の温泉街である。Wikipedia を見てみると、「凝結凝灰岩が侵食されてどうたら」とか書いてある。僕が大学で地学系の学科に入っているので、それをよく揚げ足とって、「こういう地形を見たらさあ、その成り立ちとかわかるでしょ」とか言ってきそうな、なかよしさいくる現会長（誰？）の声があたかも聞こえてくるようだ。実際は僕も何もわからない。

広漠とした山林の中に、ポツンとある温泉街だから、野生の鹿も見ることがができる。その日の宿は 4000 円くらいで泊まれる小さなホステルである。そのホステルには温泉はないし、そこまで高級でもないが、近くの温泉宿のお風呂に入ったり、ご飯を食べに行けたりするから、思った以上にコスパは良い。その日は夜中に雨が降って、天気が心配だったが、明日に備えて早く寝ることにした。



3 日目

⑦ 今日の旅程確認



今日のルートは、概ね石狩川を下っていくような 72.5km のコースである。途中愛別町で、これまで 170km 以上ひたすら直進してきた国道 39 号線に別れを告げ、旭川の郊外を通りながら、合宿の集合地点である旭川空港に正午までに着く、という計画だ。



6 時 50 分、層雲峡を出発する。昨日の雨で路面状況が良くないので、スピードを抑えながらゆっくり下る。

⑧ いよいよ旭川空港へ

国道 39 号を曲がって石狩川を横切り、ずっと一面畑と田んぼの道を走っていると、途中の当麻町に休憩所を見つけた。セイコーマートで買ったサイダー（とにかく強炭酸度がすごい）をぐびぐび飲んでいると、地元のお年寄りの 2 人組に話しかけられる。やたらとロードバイクを珍しがってくれたのと、今日の旅程のことを話していた以外は、あんまり覚えていない。しょーもないことばかり喋っていた気がする。



その日の昼は、セイコーマートのチャーシュー丼であった（セイコーマートの回し者か）。そこでも、車に自転車を積んで旅をしている人と少ししゃべるなどした。ロードバイクが話のきっかけになる、というのが自転車旅の醍醐味の一つだ。



そこからまた道に曲がって、空港に向かう道をいく。はるか先に旭川の中心市街地を望む。そして、ほぼ時間通り、11 時 40 分に北海道合宿の集合地点・旭川空港に到着した。



いかがだったでしょうか。実はこうして自分でホテルも飛行機も予約して旅をするというのは初めてでした（これまでは全て親任せ）。この話の裏側では、ホテルを間違えて 1 ヶ月ずらして予約してしまい、親に慌ててホテルを取り直してもらったハプニングもありました。まあそれも旅です。

今度、阿蘇を中心に九州への一人旅を企画したので、次回はそのことを書ければとおもいます。それではまた。